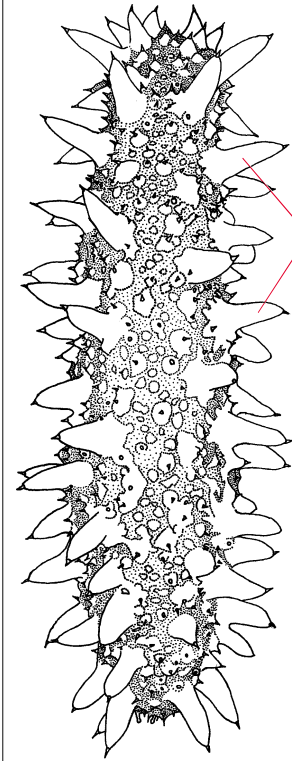


マナマコ目 *Aspidochirotida*  
シカクナマコ科 *Stochopodidae*



北海道産  
いぼあし  
の疣足は  
太く長い

## 99. マナマコ

*Apostichopus japonicus*  
(Selenka)

図版41

英名 sea cucumber

露名 дальневосточный трепанг,  
трепанг

地方名(北海道) ナマコ

漢字 海鼠、生子

アイヌ語名 ウタ

**【形態】** 体は円筒形で、前端に口、  
後端に肛門があり、口の周囲には20  
本の触手\*がある。体の腹面には管  
足\*が3縦帯\*をなして密生し、背面  
から体側には大小の疣足が不明瞭  
ながら6縦列\*をなす。体色には3つ  
のタイプがあり、赤褐色のアカ、青  
緑色のアオ、黒色のクロがある。ア  
カは別種\*であるとする見解もある。  
北海道で一般にみられるものは茶褐  
色の地に黒い斑紋はんもんを有するがアオと

され、南方産のアオに比べて疣足が太くて長い。津軽海峡内ではアカもみられる。ふつう、体長\*20~30cm。

**【生態】** アラスカ、千島列島、サハリン、朝鮮半島、遼東半島および北海道から九州、鹿児島県種子島までの日本各地に分布する。北海道では十勝、釧路地方を除く全域に分布する。生息場所は、主に潮間帯\*から水深40mまでの砂れき\*底や岩礁上であるが、水深100~300mからとれることもある。

雌雄異体\*であり、成熟\*した卵巣は半透明の橙色、精巣は乳白色で、ともに太さ2~3mmの樹枝状。卵の直径は0.15~0.17mm。北海道での産卵期は6月下旬~9月上旬で、地域によって異なる。受精卵は十数時間でふ化して浮遊生活に入る。受精後40時間ほどでアウリクラリア\*幼生\*となり、植物プランクトンを摂餌して受精後十数日で体長1mm弱となる。その後、体が急激

に縮小して長径0.4～0.5 mmのピア樽形のドリオリア\*幼生に変態\*し、その1～2日後には、5本の触手を持つペンタクチュラ\*幼生となり底生生活へ移行する。さらに骨片\*や管足が形成され、早いものでは受精から2週間後に成体\*とほぼ同じ形になる。



クロ、アオ、アカの3タイプのマナマコ  
(腹面から見たところ、田嶋健一郎氏提供)

マナマコの成体が活発に活動する水温は約10°C以下で、25°C以上になると運動や摂餌活動を停止し、夏眠\*する。しかし北海道ではそれほど高水温にならないため、通常、夏眠はみられない。

マナマコは周囲の砂泥などを摂食し、中に含まれる海藻の破片や微小生物などの有機物を消化して栄養をとるため、底質を浄化する。